

プレドニゾン酢酸エステル配合 日本標準商品分類番号812569

使用前にこの説明文書を必ずお読みください。
又、必要な時に読めるよう保管してください。

注入式で、薬剤を直接届けます。

デナンコーハイ 痔疾用剤

デナンコーハイは、抗炎症作用の顕著なプレドニゾン酢酸エステルを始め、有効成分を軟膏状にして、使いやすい注入式容器に入れた新しいタイプの痔疾用剤です。

痛み

局所麻酔作用のあるリドカインで痛みを鎮めます。

出血

エフェドリン塩酸塩で出血を止め、酸化亜鉛で患部を保護します。

はれ・かゆみ

抗炎症作用のあるプレドニゾン酢酸エステルで、はれ、かゆみを抑えます。

- ご使用の前に入浴又はぬるま湯を用い、ガーゼなどで患部をきれいにしますと、一層効果的です。
- 排便時の痛みが激しい時は、1時間ほど前に注入しておきますと、排便時の痛みをやわらげ、便の通りをよくします。

△ 使用上の注意

してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる。)

1. 次の人は使用しないこと

- (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 患部が化膿している人。

2. 長期連用しないこと

相談すること

1. 次の人は使用前に医師又は薬剤師に相談すること

- (1) 医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 授乳中の人。(4) 高齢者。
- (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。(6) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (7) 次の診断を受けた人。

高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害

2. 次の場合は、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談すること

- (1) 使用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、はれ
そ の 他	刺激感、化膿

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	使用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさ等があらわれる。

- (2) 10日間位使用しても症状がよくなりません

効 能

さけ痔(さけ痔)・いぼ痔の痛み・かゆみ・はれ・出血の緩和

用法・用量

成人(15歳以上) 1日1~2回、朝・就寝前・排便後等に患部を清潔にした後、1回1個、肛門部に挿入し、全量を注入する。又は、適量を肛門部に塗布する。なお、一度塗布に使用したものは、注入には使用しないこと。

〈用法及び用量に関する注意〉

- (1) 小児には使用させないこと
- (2) 肛門部にのみ使用すること

成分と働き

成 分	1本(2.5g)中	作用
プレドニゾン酢酸エステル	1.0mg	抗炎症作用
リドカイン	37.5mg	鎮痛・鎮痒作用
エフェドリン塩酸塩	12.5mg	血管収縮作用
酸化亜鉛	150.0mg	収斂・保護作用
ℓ-メントール	7.5mg	
添加物として、ワセリン、流動パラフィン、サランミツロウ、スクワラン、オリブ油を含有します。		

- 〈保管及び取り扱い上の注意〉
- (1) 直射日光の当たらない涼しい場所に保管すること。
 - (2) 小児の手の届かない所に保管すること。
 - (3) 期限を過ぎた製品は使用しないでください。なお、期限内であっても、開封後は品質保持の点からなるべく早くご使用ください。

使用方法及び治療のポイント

- ①キャップを静かにはずしてください。



- ②すべりをよくするため薬剤を少量出して先端部に塗ってください。

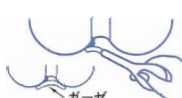


- ③肛門に深く挿入し、容器内の薬剤が十分に注入されるように強く押し出してください。



内部に注入する場合

- ④適量を直接患部に塗るか、ガーゼなどにのばして患部にあててください。



外部に塗布して使用する場合

- 注入式のため、容器の中に少量残りますが、残量を見込んで薬剤は充分充填しており、必要量は、肛門内に注入されます。又、寒い時期、容器が多少硬くなりますが、手の中で暖めると出やすくなります。

本剤についてのお問い合わせは、お買い求めの店または下記までご連絡ください。

〒656-1501 兵庫県淡路市尾崎859

ムネ製薬株式会社 消費者相談窓口

電話 0120-85-0107 FAX 0799-85-1369

製造販売元 株式会社 雪の元 本店
奈良県橿原市大谷町182番地

発売元  ムネ製薬株式会社
兵庫県淡路市尾崎859

包 装

10個入・20個入
(1個づつシール包装)

特 長

- 効きめが速い 軟膏状の薬剤が見えない患部にまで直接とどき、効きめが速く表れます。
- 2通りの使い方 坐薬の代わりとして肛門部に薬剤を注入。
又、軟膏として肛門外部に薬剤を塗布できます。
- 衛 生 的 注入部が細く、スムーズに手を汚さずに自分で注入できます。

養 生 訓

1. 毎日入浴する。(患部の清潔と血行の改善)
2. 野菜、海藻等繊維の多い食事にする。
(便の量を増やし便をやわらかくし、便通を改善)
3. 香辛料は控えめにする。
(排便時に患部を刺激する)
4. 深酒をつつしむ。
(肝臓に負担をかけ、患部のうっ血をまねく)
5. トイレは3分以内にすませ、あと必ず清拭する。